



なきごえ



1991

8

村上 昭



私と動物との出会いは家畜でした。それは戦後の食糧不足という社会的な背景がそのように記憶させたのかも知れません。ニワトリ、アヒル、ヤギ、私が小学生の頃、家にいた家畜のその当時の情景そのままに、昨日のごとく鮮明に想い出されます。

家の土間にわらを敷き、メェ〜メェ〜と鳴いていたヤギ、毎日卵を楽しませてくれたニワトリのリリしい姿。そうそう食糧不足と言えば社会全体がそうであり、10人家族の私の家は父親の会社勤めとその延長の商売のわずかな稼ぎだけだったので、とりわけ厳しかったように感じます。そのためか、私の記憶は随分貧弱で、子供の頃の学校外での生活は貧と食との戦いがすべてでした。

学校からの帰り道、野山に分け入って木イチゴやグミ、ビワなど手当たり次第に口に運び、お腹が痛くなっても翌日はケロツとして同じことを繰り返す毎日でした。中でも遊びと実益を兼ねたドジョウ、フナザリガニ、食用ガエル、イナゴなど、さしずめ今なら珍味食品としての地位を得ている動物をつかまえて意気揚々とあたかも凱旋將軍のような気持ちで家に帰ったものです。そんな場所が身近にいくらでもありました。

トンボ、チョウ、ハチ、カエル、ヘビ、トカゲ、イモリ、ホタル、ゲンゴロウ、そして名も知らない数えきれないほどの動物が池や川、野原のすぐ手の届くところにいて生活の一部となっていました。そういった自然環境が時と共に、人間の豊かさへの発展の代償に消え去っていきます。

今、子供達は自然との絆を知らずに育っています。わずかに犬、猫、小鳥などの家畜やペット動物の中に動物との絆を求めなければなりません。動物の営みに接して、やさしさ、愛情、厳しさといった人間の発達の基本となる感情、感性、情緒が形成されるその体験場をなくされています。大変なことだと思います。

自然環境の回復や保護はすべての人間がわかっていながら事態はどんどん自然破壊の方向に進んでい

なぎごえ 8月号もくじ

動物と私 2
ブラックバック入園 3
選ばれた青い星を守るために 4・5
環境問題と生態系 6・7
動物園グラフ・動物園日記 8・9
獣医室から⑤ 10
動物園ニュース 11

くこのもどかしさといらだち……、そんな気持ちをみんながいだきながら、この地球環境を子孫に引継いでいるのです。

私の少年時代の記憶に強く残っているのは犬との生活でした。

真っ黒な毛で全身をおおわれた犬、そうです。“クロ”です。学校を終えた家庭生活での自由時間の殆どどの場面が犬と一緒にでした。私の目付き、言葉、動作で、さっと敏感に反応します。

号令一声、先に駆け出し、要所でふり返り、じつとこちらを見つめ、確かめては、また駆け出します。行け、止まれ、待て、伏せ、私の言葉を聞きわけて懸命に伝えてくれます。私がうれしい時、さびしい時、悲しい時、“クロ”も本当に同じ気持ちになって跳びつき、じゃれ、尻尾を巻き込んでうなだれ、悲しい泣き声します。

めったになかったのですが、喧嘩にも強く、前足ではさみ込んで相手を負かす闘いぶりは他の追隨を許さず、地域のボスの存在という自分の世界もあったのです。

その“クロ”は20年余り、晩年は病いに伏せながらも立ちあがろうとするその姿を忘れることが出来ません。

人間と動物の愛情や絆をテーマにした物語や自然の厳しい環境の中で懸命に生きぬく姿を紹介する記録映画を私もよく見ます。時には人間の心におびえながらも解ろうとする動物、そして気持ちを動物に解ってほしい人間。そこに人と動物との深い絆が生じてくると思います。少なくとも人間側の都合を動物に押しつけることをくり返せば、動物の信頼感だけでなくもっと大きな生物界そのものの滅亡を来すこととなります。

私達は毎日必ずといってよいほど動物と出会います。犬、猫、小鳥、昆虫、魚……そのどれもが身近にあり、人間の生活の中に生きています。しかし、家畜やペットを除いた野生動物の種類や数が少なくなってきました。そしてその原因は野生動物が生息する池、川、野原そしてうっそうとした森を人間が人間の都合で壊しているからにほかなりません。

私達がこどもの頃に体験した自然を長い年月をかけてでも回復させ、月並みですが自然環境保護の大切さをどんな形でもよいから一人ひとりが行動、実践していけたらと心から思う今日この頃です。

(天王寺動植物公園事務所副所長)

表紙の写真説明

“コサギ” (Egretta garzetta)

ヨーロッパ南部からアフリカ、日本、フィリピンに分布しており、日本では周年見られることから留鳥とされてきましたがかなりの数がフィリピンに渡っています。当園では毎年10数羽の雛が孵化しています。

(撮影：榊原 安昭)



“ブラックバック入園”

6月24日、姫路セントラルパークから雄のブラックバックがやって来ました。これは血液更新のため、当園の雌と交換したものです。

来年早々には可愛い赤ちゃんが沢山生まれるでしょう。

(撮影：竹田 正人)

NHKの番組、地球の誕生を扱った「地球大紀行」は見応えのある番組であった。広大な宇宙空間に漂うガスや岩石の屑がだんだん集まって地球が誕生していく様はきわめて感動的で、時々録画テープを再生してみるが、何度みても圧倒される。

このシリーズでは地球以外の太陽系の惑星群の誕生にも触れ、彼らが地球と同じメカで生まれたのにもかわらず、ついに生物を育むことができなかつた理由を分かりやすく説明している。

思えば、青い星としての地球だけが多様な生物を育むことができたのは、太陽から一定の距離に位置し、水と酸素を蓄積し、過剰の炭酸ガスは貝やサンゴの骨格を形成するための炭酸カルシウムの形で固体化して大気中の濃度を低く保ったり大気圏外からの紫外線など、有害なエネルギーはオゾン層で過剰量をコントロールするなど、生物が生存していくためのすべての条件が偶然にも揃った星として誕生したのである。その偶然性が揃う確率は数学的に計算はできないが、おそらく宝くじを何10回も連続して当たる確率に相当するほどの奇跡であろう。

これら一連の映像をみていると、いかに無神論者の私でも、宇宙には神様が存在すると主張する人々に反論できなくなってしまう。

余談になるが、血気盛んな頃、外人牧師を困らせてやろうと無理難題をぶつつけたことがある。その頃私は、「神や仏は所詮迷信の塊みたいなもので、人間が大衆を支配するために考えだした都合のよい仮説に過ぎない。現にその存在を納得のいく形で証明できないじゃないか」と一発、挑んでみた。目に見えないものを信じるとしても私は素直に従う気になれなかつたのである。

するとその牧師は優しい眼差しで私のことをまるで憐れむかのような口調で、「あなたは今時計もっていますか、その時計は見えてもそれを造った人が見えますか」と聞かれ、私は返答に窮してしまった。

以来、この問題は解決されないままいつまでも心の隅にひっかかったままだった。これが、やがて大学に進み、教養課程で宗教学を選択する動機となったが、ある日の講義で「この宇宙には神や仏が実際に存在するか」という素朴な質問に対する教授の説明が面白かつた。神や仏の存在を仮定するのが非科学的というのであれば、原子物理学や遺伝学も原子や遺伝子といった眼に見えないものの存在を仮定して理論が導かれ、学問として発達を遂げてきたわけであるから、その意味ではこれらの学問は非科学的ということになる。

まさか現代の最先端をいく物理学や遺伝学が非科学呼ばわりされるとは思ってもみनाかつただけに驚いた。私はいまだに特定の宗教の信者でもなければその筋の専門家でもないから宗教を云々する資格はない。ここで云いたいのは要するに、この太陽系で地球だけに生物が存在するのは単なる偶然とか奇跡というには、余りにも出来すぎていると思うからである。



宇宙の森羅万象をみていると、この宇宙にはこれを創造した神というものの存在を仮定してもいいような気がするようになった。といつても特定の信仰の対象としての神や仏ではない。いわんや現世の利益を頼みまいらせる神頼み式の神や仏ではない。

地球の誕生はいまから45億年前、そして地球に生物らしきものが現れたのが、約40億年前といわれている。想像もつかないほどの長い時間なので、感覚的にピンとこないが、これを一年の暦に置き換えてみると、最初に生命が誕生したのが5月上旬、それ以後いろんな生物が次々に誕生してくるが、われわれの祖先である哺乳類は何時かという、なんと大晦日の紅白歌合戦もたけなわの午後10時頃に相当するというから、多くの動植物はわれわれよりもはるかに古い地球の住民であり先輩なのである。

翻って現在の地球環境をながめると、宇宙を支配する神が気の遠くなるような長い年月をかけて造りあげてきた青い星を、一番後から現れた人間、とくに経済先進国といわれる国の人間が環境破壊によって、地球の先住民の生存を危うくしているのである。現在、環境破壊によって魚類から哺乳類に至る脊椎動物だけでも約450種が絶滅の危機に瀕しているといわれている。人間の日常生活と直接関係のない動物の100や200種なくなつたところで大騒ぎすることはない、という人がいるかもしれないが、それは自然の仕組みに理解のない人のことであつて、とくに東

京や大阪のように自然とのふれあいから遠ざけられている人々には痛くも痒くもない話かもしれない。むしろ、生まれた時からコンクリートの建造物が乱立する中で毎日を送っている人々に、いま地球が病んでいる実態を理解せよ、ということ自体が無理な話かもしれない。

私は少年期を学童疎開で三重県のある山深い山村で過ごしたが、5月ともなると天然遡上の鮎が真っ黒になるほど群れをなしていた。そして魚の最盛期にはプロの漁師が連日、20~30キロ単位でゴソッと捕つても、次の日には元の漁影が回復していたものだが、やがて下流にダムが造られてからは様子が一変した。一度ゴソッと捕るとその場所の魚影は仲々回復しなくなり、子供心にも自然に人間が手を加えると必ずそれだけの代償を支払わされることを思い知らされたのである。

代償といえば、もうひとつ、子供の頃、鰻の餌に用いたシマドジョウは砂地の上にクモの子を散らしたように群れていたものだが、最近、水中メガネでいくら捜しても1匹も見かけなくなった。これは護岸工事で川岸の藪がすっかりブロックに置き換えられた頃と時期的に一致していることから、繁殖のための場が失われたためであろう。

いま同じことが日本の海岸でも起こっている。先日、鳥羽で開かれた日本動物園水族館協会の園館長会議の特別講演で、その道の権威者であるジャックモイヤー博士が指摘されていたが、最近のリゾート開発や沿岸工事で、魚の産卵場所である珊瑚礁が急速な勢いで衰退しており、このためにかつては漁民の生活を支えていた魚の漁獲量がガタッと減って、もはや生活が成り立たなくなった事実を紹介されていた。

陸上でも事情は同じである。地球の酸素の供給源でもある熱帯雨林がここまで育ち地球環境の清浄化に機能するには数10億年、例の一年の暦でいえばほぼ一年近くもかかつたものを、わずか数秒という短い間に人間が消費し荒廃に追いやりようとしている。最近、自然破壊や環境保全が声高に叫ばれるようになったが、それを見聞きする何人の人が身近な差し迫つた問題として受け止めているであろうか。

大切なことは、問題の自然破壊に自分がどのように係わっているのか、とくに自然環境から隔離され、人工産物の溢れた都市に居住する人々にその意味が実感として受け止められるかどうかは疑問である。そこには自然への認識が欠けているからである。自

然への認識とは、我々が縁もゆかりもないと思っている名も知らない動物や植物の一つひとつが、互いに関連し影響しあつて生存し、その見事な調和が、地球環境の健全性を支えているということを認識することである。そして人がその調和を乱すと自然は容赦なくその代償の支払を迫ってくるという認識である。

ではこのような自然の仕組みを人々はどこで学び、どこで体験すればよいのだろうか。最も効果的な方法は、一人ひとりが自然の中に身を置き、自分の眼でそれを確かめてみることである。

しかし、各自が熱帯雨林や珊瑚礁に出かけたり極地や深海を探索するというには限度がある。そこで登場してくるのが、生きた生物を扱う動物園や水族館の働きである。国際自然保護連合の声明にもあるように、自然保護精神の啓発は、楽しみながら肩の凝らない形で自然の素晴らしさや動植物の働きと相互の関係を自分の眼で確かめ、多様な生物が宇宙創造の神の摂理に従って整然と発展してきた生物の歴史を学ぶことである。そして動物園や水族館が人々にそうした認識をもたせる場として機能するように展示方法を工夫しなければならない、というのである。今や動物園は種の保存と同時に環境教育施設としての位置づけと役割を負わされているのであつて、現代人のエゴで絶滅しかかっている地球の先住民の保護と回復を図ると同時に、神を畏れぬ人間の環境破壊が後々いかに高い代償を支払わねばならないか、を訴える施設とならねばならない、というから責任も重大である。

幸い、わが園には、早くからこうした理念に目覚め、動物飼育も単なる動物の世話人に終始することなく、動物の倫理や福祉も含めた高い次元に立って見直していこうという気概と使命感に燃えたスタッフが大勢いるのは大変心強い。

21世紀を目前に控え、天王寺動植物公園が、「自然は祖先からの預かりものであると同時に将来の世代からの預かりものである」といった考えのもとに実現可能なところからとりくんでいきたい、と思う。

(大阪市天王寺動植物公園事務所所長：中山 良三郎)

§ 都市化

近年、動物園に持ち込まれる保護動物にタヌキ、イタチ、アナグマ、カワセミ、ヨタカ、フクロウ等が増えている。また、新聞テレビ等でも住宅地や民家に近いハイキングコースにシカやイノシシが出た、タヌキやニホンザルが出たとニュース沙汰になり、これは、人に動物愛護の気風が招来したから、動物が安心して人に接するようになったからだ、などと報道している場合もあるが、実のところは高度な経済発展に伴う道路整備、住宅開発、建築材料の生産等により自然環境が破壊され、山野での安泰な生活の場を追われた野性動物がやむを得ず人の生活領域まで接近し、それに依存しなくてはならなくなったからである。人の生活領域に近接して見えるようになったものはタヌキ、イノシシ、シカ、カモシカ、キジバト、カワセミ、カワラヒワ等であるが、見えなくなったものはタヌキ、イノシシの生活を支えた灌木の林であり、葉であり、実であり、樹皮であり、またそれに依存する昆虫、爬虫類、鳥類である。また、失った環境は里山、田畑、小川である。

如実な例として、清流に棲むとされているカワセミが生息地の川を汚されたり破壊されたため、都心部まで押し出され、動物園のトラの水濘や都会の濁った川で定期的に見られたり、人のあまり踏み入らない森や林を棲みかとするヨタカが開発のため迷い出て保護されるケースが増えている。また、林業施策がスギ、ヒノキなど針葉樹に置き変わるため餌に枯渇したカモシカ、シカ等がこれらの若芽を食害したり、里山において姿を見せる例も増えている。

§ 河川改修

治水のために、また親水や地域振興のために河川を改修し、併せて河川敷を高度利用するため、河川の護岸をコンクリート化した結果、水辺、水中環境に多大の影響を与え自然の川辺が消失し河川に依存する生物の生息が影響を受けた。河川には底質に微生物や原虫類、水辺に抽水、浮遊、沈性等の水生物、水中に水生昆虫、甲殻類、魚類、このほかあらゆる生物が複雑に絡み合っ生息しているが、河川の改修が生態系の多様性を奪う結果、自然の浄化作用が減少した。端的な例として溜池や河川でわずかなゴミや汚れや水漏れを市民から指摘されたことで、行政側が十分な調査、研究をせず、池底や川床全面をコンクリート改修することによって、一時的な汚れや水漏れは止まったものの、以前よりBODやSSの値が高くなり、臭いや濁りがひどくなって魚や水棲昆虫も極端に少なくなったという話がある。これらは底質や水辺の微生物、原虫、小昆虫、水生植物、砂、礫等が分解や濾過の働きをして酸素の多い良好の水質を維持するために働いているという生態系のバランスを考えに入れていないからだと思う。

そこで、一部にはコンクリート使用もやむを得ないとしても、自浄作用が可能なように自然を残し、自然と調和した河川改修、溜池改修を行わなければならない。

§ 都市環境の変化

都市への人口集中や活発な商業活動を支えるため、都市機能は高度に開発され、その一つとして建物は

ますます高層化し、高速道路、地下鉄などの運輸手段も一層整備され、都市が商業地域、住宅地域として機能が拡大、増強された。このためのエネルギー費もますます膨大化し、ビルや工場或いは車からだされる排ガスは大気に停滞し、都市の気温上昇に一役買うほか、一酸化炭素、窒素酸化物、硫黄酸化物など大気汚染の元凶となる物質を大量に排出した。

また、路面の全面舗装や建物のコンクリート化は雨水を地中に貯留せず、直接、側溝や下水管から河川や海に流すため、河川や海の水質が変化しプランクトンの成育や魚類の生息に影響を与え生態系のバランスを崩している。また、地表や樹木からの水分の蒸散を封じ込めるため、植物の活性を阻害し、都市の乾燥、気温上昇を助長している。

高度な経済発展は大量の物質とエネルギーの消費を促し、このため都市環境では周年を通じ明るく温かい安全な生活が確保された。しかし、20~30年前では四季の変化が五感で感じる事ができたが、空調、照明等が完備された住環境の変化により、最近では季節の変化や気象の変化にも感受性を示さなくなった。

また、都市においては、騒音、振動、大気汚染などの都市公害を被るに至っている。

これらのつけが近年急速な地球規模の環境破壊という世界的な問題を引き起す結果となっている。

§ 経済発展と環境破壊

北半球に位置する先進国は自国の経済発展と安定した国民生活を確保するため、南半球の第三世界、とりわけ開発途上国より膨大な原料を輸入している。このため開発途上国では、原生林や化石燃料や鉱物資源を供出するため自然環境は広範囲にわたって破壊されている。この見返りとして先進国は経済援助技術援助としてプラントの輸出や農作物の収量増を図るため農業技術や肥料農薬の輸出を行っている。しかし、国民生活の水準の低さや環境公害規制の認識不足、産業振興のために環境政策の犠牲等が見られるため、洪水、干ばつ、大気汚染、農業汚染など諸問題を引き起こしている。

石油、石炭、天然ガスの化石燃料は燃料として、或いは原料として用いられている。暖房、工場、自動車等の燃料として目的使用の結果、大量のNOx、SOx、煤塵、二酸化炭素、水蒸気等を排出するが、これが温室効果をもたらす地球の温暖化を進める一方、酸性雨を降らし森林破壊や建築物の腐食を引き



江戸時代、日本の各地でみられたコウノトリも、昭和46年に捕獲された1羽が最後となり、現在に流すため、飼育中のはほとんどが中国産、ソ連産のもの。

起こしている。また原料としては、プラスチック、ウレタンフォーム、発泡スチロール等を造るが、一部では、製造過程で大量のフロンガスを利用するため、これが、大気中のオゾン層を破壊し、紫外線による皮膚ガン等の健康被害や麦、米、トウモロコシへの農作物の生長、収量にも影響を与えている。

森林は大気に酸素を供給し、水蒸気を蒸散し、炭素や窒素とのバランスを図り、樹木と林床の保水性は洪水の誘発を防ぎ、十分な地下水を保有する。また樹木の根は土砂を把握し、土砂の流失や乾燥、砂漠化を防止する。そして森林の最も偉大なことは無数の生息場所であり、生態系の基盤になっていることである。



密猟、乱獲により絶滅のおそれのあるクロサイ。国内には5園で12頭が飼育されている。

現在、熱帯や温帯の原生林は先進国の建築材料やパルプ原料として伐採されるほか、原住民の燃料として、或いは焼き畑農業の農地確保や放牧地の確保から驚くべき範囲で伐採されている。この広範囲な伐採は酸素の供給を減少し一酸化炭素の過剰を助長し、ひいては地球の温暖化に一役買っている。熱帯林の伐採では原木輸送を容易にするための皆伐や農耕のための皆伐は、元来、地力がなく表土の栄養が薄いため、農地としての生産性は数年にして減少し荒地化して放置される。また、伐採後は保水力が極端に低下するため洪水、干ばつから砂漠化が推進される。この現象は温帯林における場合にも同様で保水力の低下、土砂の流失、堆積、断続的な洪水、河川、湖沼、海の生態系の破壊や農水産物の生産低下、飢餓等を生じる。

生態系の一員

人は地球上に生息する生物全体から見ると、ほん



IUCN(国際自然保護連合)WWF(世界自然保護基金)などが、その保護に力を入れているゴリラ。熱帯雨林の破壊が生息に大きな影響を与えている。

の一握りの集団でしかありえない。人が自然を制することは不可能であり、愚行である。従って如何に自然と協調するかが肝要である。ここで動物の種と人とのかわりについて考えてみると、現代はいろいろ要素が絡み合っ生物の種の消滅、崩壊が非常に早い。1600年から1900年の300年間に75種の鳥類と哺乳類が減っている。1900年以降を見ると1975年までに75種減っているといわれている。この状況を地球上の全生物種を推定200万種と考えて置き換えた場合、1日1種が減るペースとなり21世紀までに50~60万種が減るといわれている。生態系はそれを構成する種類が多ければ多いほど、また、複雑であればあるほどその生態系は安定しているといえる。単純な生態系はひとたび強い感作が加われば崩壊のスピードは早い。生態系を維持するためには環境保全はもちろんであるが、それに伴って構成要素の一つとして種の保存を図らなければならない。そしてあらゆる種が増殖し複雑に絡み合っはじめて生態系が安定した状態で維持される。

従って今、種の保存、増殖としてトキ、コウノトリ、カリフォルニアコンドル、ジャイアントパンダ、ゴリラ、トラ、クロサイ、ワニ、タイマイ等の保護が叫ばれ、ワシントン条約の遵守を強く推し進めることは、とりもなおさずそれらの生息する自然環境を保護することであり、健全な生態系を維持することと言える。

人も生態系を構成する一つのファクターであると自覚し、人が生態系の頂点に立つと考えるならば、如何に生物の種を保存し、協調し、正常な生態系を維持するかが課せられた責務であり、最重要事項である。

(飼育課中川 哲男)

参考文献

1. エリック・P・エックホルム(1984)、地球レポート、朝日選書
2. U.T.A.N編集部(1991)、今「地球」を救う本、学習研究社
3. ベストコントロール協会編(1990)ベストコントロール、No.72・(社)日本ベストコントロール協会
4. 情報知識imidas、(1990)、集英社
5. 朝日現代用語「知恵蔵」(1991)、朝日新聞社
6. 第4回花の万博国際シンポジウム'90(1990)、朝日新聞
7. 動物園・水族館の在り方に関する調査研究・協議会報告書(1990)、(社)日本動物園水族館協会
8. 「動物園、水族館の教育を考える」(1988)第28回日本動物園水族館教育研究会報告
9. 天王寺動物園年報(1985~1989)大阪府天王寺動物園事務所
10. エコアップテクノロジー入門(1991)アニメ1 No.220・平凡社
岡島成行 日本の環境行政を読む 杉山恵一 守る自然から造る自然へ、緑の別島改造草案
北村真一 「近自然」、「多自然」の川作り
森 清和 ホタルトンボがやってくる公園はこうやって作る
桜井善雄 湖岸の自然をよみがえらせる陸と水のエコトーン
君塚芳輝 魚の視点から川を見る、生物学的水循環の思想
※本稿は近畿建築士会協議会発行の機関誌「hiroba」7月号より一部削除訂正し、転載したものである。

動物園グラフ

“今年生まれの赤ちゃん”

今年も当園ではたくさんの赤ちゃんが生まれています。今回はその中から夜行性動物舎で生まれた赤ちゃんと有袋類の赤ちゃんを紹介します。(撮影：竹田 正人)



オオガラゴ

ネズミヤリスによく似ていますが、実は霊長類の仲間です。夜行性の動物で、大きな目と耳、ふさふさとして長い尾が特徴です。アフリカの中部の森に生息しています。



ショウガラゴ

親でもヒトの足のひらに乗せることができるくらい小さい夜行性の動物で、忍者みたいに飛び回っています。アフリカの中～南部の森林に生息しています。

6月の動物園日記

- 6 / 1. アカハシハジロが2羽孵化しました。ヒツジの毛刈をしました。
- 6 / 2. キョンが1頭生まれました。
- 6 / 3. 昨年に続いて今年もダチョウが1羽孵化しました。ニホンジカ(雌)が1頭生まれました。札幌市の円山動物園からチュウゴクオオカミ(黒変種)が来園しました。ペンギン3種13羽が冷房ペンギン室に移動しました。
- 6 / 4. ワシミミズク(雌)1羽を宇都宮動物園に

- 寄贈しました。
- 6 / 5. オシドリが2羽孵化しました。
- 6 / 6. ニホンジカ(雌)が1頭生まれました。
- 6 / 8. アカハシハジロが3羽孵化しました。
- 6 / 9. ニホンザルが1頭生まれました。
- 6 / 10. ニホンザルが1頭生まれました。
- 6 / 11. カリフォルニアアシカが1頭生まれました。ワライカワセミが1羽孵化しました。
- 6 / 12. オシドリが10羽孵化しました。
- 6 / 13. カルガモが2羽孵化しました。
- 6 / 14. オシドリ3羽とメジロガモ2羽が孵化しました。
- 6 / 15. オシドリが2羽孵化しました。



セシジクスス

有袋類の仲間で、ネコぐらいの大きさです。鋭い爪と毛の生えてない尾を上手に使って木登りをする夜行性の動物です。国内では当園と千葉市動物公園でのみ飼育されています。

アカカンガルー

オーストラリア内陸の乾燥した平原に生息しています。カンガルーは、ゆっくり移動する時は4肢と尾を使い、全力疾走する時は後肢だけでジャンプしながら走ります。



ハイロカンガルー

別名オオカンガルーとも呼ばれ、オーストラリア大陸とタスマニア島の平地の森林に生息しています。カンガルーの赤ちゃんは未熟児で生まれ、自力で育児嚢まではって行きます。

- 6 / 16. 第74回「動物のお話とスライドの会」で竹田獣医が今年生まれた動物の赤ちゃんのお話をしました。
- 6 / 17. アカハシハジロ1羽とオシドリ3羽が孵化しました。カナダガンが3羽自然孵化しました。
- 6 / 18. オシドリが3羽孵化しました。昨日に続いてカナダガンが1羽自然孵化しました。
- 6 / 19. オシドリが1羽孵化しました。
- 6 / 20. オシドリが2羽孵化しました。ダチョウが1羽孵化しました。
- 6 / 21. カルガモが1羽孵化しました。

- 6 / 22. カルガモ2羽、アカハシハジロ1羽、メジロガモ1羽が孵化しました。
- 6 / 23. ニホンザルが1頭生まれました。
- 6 / 24. 姫路セントラルパークとブラックバックの雌雄交換を行い雄1頭が来園しました。
- 6 / 26. オシドリが8羽孵化しました。マクジャクが1羽孵化しました。
- 6 / 27. オシドリが8羽孵化しました。セイランが1羽孵化しました。
- 6 / 29. ヨーロッパフラミンゴが1羽孵化しました。フラミンゴの孵化としては1976年のペニロフラミンゴの孵化以来のことです。

“投薬方法あれこれ”

ご存知のとおり、薬には様々な形と種類があります。症状に合わせて、粉薬、錠剤、カプセル、液状薬などいろいろな薬を使います。また、投薬方法も動物も種類や大きさ、病気の状態によって様々です。

動物たちが病気をした時、動物園ではどのようにして薬を与えているのでしょうか？ 今回の「獣医室から」は動物たちへの投薬方法を紹介します。

1. 塗る・かける

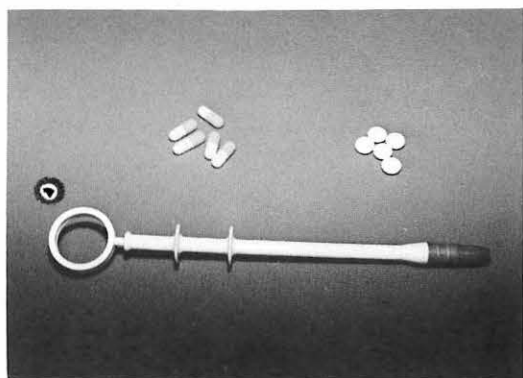
動物が怪我をしたり、皮膚病にかかったり、手足を挫いた時、捕獲できる動物は捕獲し、じっとしてくれる動物はそのまま状態を診察します。そして、比較的軽微な場合は直接薬を塗ります。

たとえば、寒い冬場によくあかぎれになるチンパンジーは、自分から手を出してくれるので直接軟膏を塗ることができます。でも、捕獲が困難な場合は噴射瓶やスプレーを使って薬をかけます。アミメキリンの怪我をした尾やアジアゾウの痛めた足にこのスプレーで薬をかけました。遠くから薬をかけるので、動物も怖がらず治療する側も安全です。

2. 飲ませる・吸入する

ほとんどの人は粉薬でも錠剤やカプセル、液状薬でも簡単に飲むことができますが、動物たちは自分から薬を飲んでくれません。

そこでどうしているかと言いますと、捕獲できる動物の場合、錠剤やカプセルは写真にあるインプッターで口の奥まで入れて押し込み、液状薬はカテーテルチューブを胃まで入れて注射器で流し込みます。粉薬はカプセルに詰めてインプッターで投薬するか水に溶かしてカテーテルで投薬します。



捕獲が難しい場合は餌に混ぜて投薬します。予め投薬する前日の餌の量を減らしておき、投薬当日、動物が確実に食べる量の餌に薬を混ぜて与えます。餌の魚を丸呑みする鳥やカリフォルニアアシカの場合には、魚の口や腹の中に薬を入れて与えます。そうすると動物たちはおなかが減っているので確実に

薬の入った餌を食べてくれます。

ペンギンなどの呼吸器系疾患の予防や治療には吸入器を使用します。動物の大きさに適した箱に動物を入れ、その箱の中に超音波式吸入器で霧状にした薬を注ぎ、吸わせませす。

3. 注射をする

注射をされるのは人間誰しも嫌なものです。当然、動物たちも嫌がり簡単に注射をさせてくれませす。注射をする時、動物たちに暴られると彼らにとっても、治療する私達にとっても大変危険です。

捕獲できる動物の場合は、網や手でしっかり保定するか、スクイジングケージという特殊な檻を使って保定し注射をします。

ところが、寝室などちょっと広い空間や広い展示場において捕獲しにくい動物の場合、これらの方法ではつかえませす。そこで登場するのが写真にある吹矢と麻醉銃です。



吹矢の筒はアルミ製で長さ約1.3m、矢は注射器を改造し動物に刺さったと同時に薬が注入されるようになっています。練習をすれば、5m離れた直径10cmの的でも正確に命中させることができます。

麻醉銃には、ライフルとピストルがあり、薬をアルミ製の注射器に入れ、ガスや火薬の力で飛ばします。動物に命中するとそのショックで注射器の中の火薬が爆発し、薬を押し出すようになっています。動物の大きさや動物までの距離によって注射器を飛ばす火薬やガスの量を調整しますが、最長30m離れていても正確に命中します。

吹矢でも麻醉銃でも動物たちのことを考えて、的が大きく筋肉の厚い臀部や大腿部を狙います。

以上、動物園での投薬方法をあれこれと紹介して来ましたが、できれば薬を与えなくてすむよう常に餌や飼育環境、飼育方法など動物の健康管理に気を配っています。

(飼育課：竹田 正人)

§ ペンギンの避暑

当園では現在、5種20羽のペンギンを飼育していますが、外気温が25℃以上の日が続くようになってきますと、暑さに弱いオウサマペンギン、イワトビペンギン、マカロニペンギン3種を、冷房室へ移動させることになっています。冷房室で避暑をして夏を過ごさせるわけです。移動の時は、同時に長く伸びた爪も切ることにしています。今年6月3日に移動と爪切りを行いました。



冷房室へ移動して快適なペンギンたち

§ タンチョウの繁殖

タンチョウのヒナが6月1日と4日の2日にわたり、それぞれ1羽ずつふ化しました。5月の1日と4日に産卵されたものがふ化したもので、この両親は今年で4年連続の繁殖となりま



先にふ化したヒナと嘴上げ中の卵

す。オス親は当園生まれの9歳、メス親は京都市動物園生まれの10歳です。今年コウノトリが新たに2羽来園したことから、飼育場所がコウノトリ舎からツル舎に移りました。そこで今年繁殖は少々心配されましたが、例年通り順調にいったものです。

§ 15年ぶりのフラミンゴの産卵とふ化

当園には、ヨーロッパフラミンゴ、ベニイロフラミンゴ、チリーフラミンゴおよびコガタフラミンゴ、計4種58羽のフラミンゴがいますが、ここ数年は巣作りがわずかにみられたものの、産卵までには至りませす。一昨年から今年にかけて、ヨーロッパフラミンゴやチリーフラミンゴの羽数を10数羽ずつ増やしたところ、ヨーロッパ、チリー、ベニイロの3種が、5月中旬から巣造りをさかんにはじめるようになりました。5月31日に当園では15年ぶりに



抱卵中のフラミンゴ

現在の飼育動物数 (平成3年6月30日現在)

哺乳類	12目	93種	419点
鳥類	20目	177種	756点
爬虫類	3目	31種	69点
合計	35目	301種	1244点

フラミンゴの産卵を見ました。

巣の数は、6月末現在14個で、10個の産卵があり、6卵が各々のペアにより抱卵されていましたが、6月29日にヨーロッパフラミンゴのペアにかわいいヒナが、誕生しました。本誌が発行される8月には、数羽のヒナたちの姿がみられるものと思います。

§ ブラックバックの成獣オスの来園

カモシカ園ではブラックバックを群れ飼育していますが、近親交配を避けるために、ボスである成獣のオスを昨年6月、動物交換で出園させていました。その後、血液更新を図るため新しい成獣のオスを捜していましたが、この度、姫路セントラルパークのオスと、当園のメスと交換という条件で、6月24日に、りっぱな角を有するオスの成獣が来園したものです。検疫終了後、カモシカ園に放飼、群れと同居予定です。



検疫中のブラックバック

§ 平成3年度動物園協会総会の開催

6月26日、園内レクチャールームで大阪市天王寺動物園協会の総会が開催されました。今回の総会で定款の一部改正の

ほか、二宮副会長が退任され、その後任に阪口緋子さん(阪口助役夫人)が選出されました。

● お知らせ

動物のお話とスライドの会
9月15日(日) 動物園のお医者さんのお話
10月20日(日) カンガルーのガイド
11月17日(日) トラのガイド
12月15日(日) 動物園裏側ウォッチング
時間：午後1時～2時
場所：ガイドは各獣舎前
他はレクチャールーム

● テレフォンサービス実施中

催し物、トピックスなど魅力たっぷりの動物園の案内を、24時間テレフォンサービスで行っていますので、ぜひご利用ください。
電話番号 771-9999

* 休園日のお知らせ *

動物園の休園日は毎週月曜日(休日の場合は翌日)です。
開園時間は午前9時30分から午後5時までで、午後4時まで入園できます。

愛ある暮らし、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光 / 監修
B5変型判・オールカラー
定価580円

動物園で暮らす様々な生き物達、
自然の中ではどんな暮らしをして
いるのか？ 動物園での世話
の仕方は？ 仲間とは？ など、
写真と精密イラストをまじえ紹
介します。

くらしかいかたシリーズ<既刊本>
B5変型判・オールカラー・各定価580円

むしくらしかいかた

野山でみかける身近な昆虫たち
250種を紹介。

ちいさないきものくらしかいかた

昆虫以外の小さな生き物を320
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社 / 〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表

室内装飾設計施工・バラエティ雑貨卸

1st ファースト商会

〒559 大阪市住之江区平林南1丁目2番57号
ヘッドビル202号
TEL 06-686-4033 FAX 06-686-4032

オートフォーカスカメラに

フジカラー SUPER HIG 400

ピントが合いやすいフィルムです



カメラの大林

桜橋本店 ☎341-8091
三番街店 ☎372-5031

全国の愛犬家の共感を呼ぶ無比の愛犬歌集

絶賛四版

歌集 犬の歌

平岩米吉著

著者が、約四十年の間に、共に暮らした七十余頭の犬の生と死
を歌った四百十九首を収録。同時に、その誕生より老齢に至る
写真四十七図を収めた、犬の一生の生態写真集でもある。

天金・美装箱入
B6判・270頁
3000円・〒不要

《感動の言葉》

- ☆この歌は愛犬と異体同心の境地である。(英文学者)
- ☆人として注ぎ得る愛情の極致を示している。(動物研究家)
- ☆一首ごとに、ことごとく魂にひびく歌です。(動物愛護家)

●本書は、書店ではお買い
求めになれません。
直接当会へお申し込みく
ださい。

〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2 動物文学会 電話(03)717-1659/振替・東京5-9800

新作

貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」
19分(10本常備)

- 対象 / 保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間 / 10日間
- 貸出料 / 無料(但し郵送料480円は必要)
- 申込先 / 当協会まで手紙かハガキで
お申込下さい。

天王寺動物園の本

入園の記念・手引に……

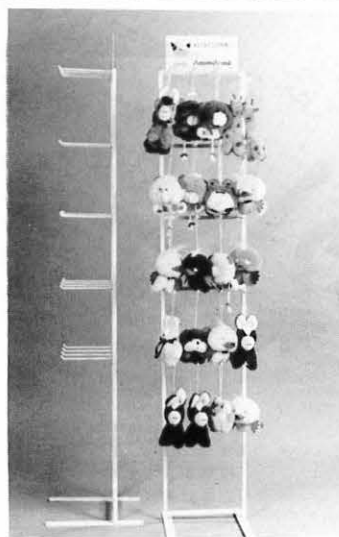


コアラテレホンカード(限定販売)
好評発売中 ¥800(50度用)

オールカラー
500円

園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

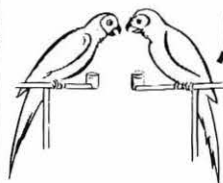


動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

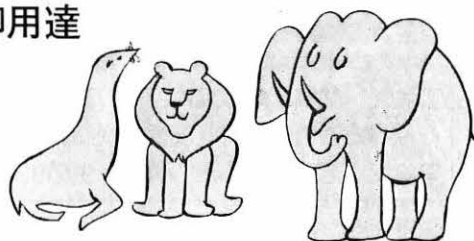
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号
TEL: (06) 704-8580
FAX: (06) 704-8565



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

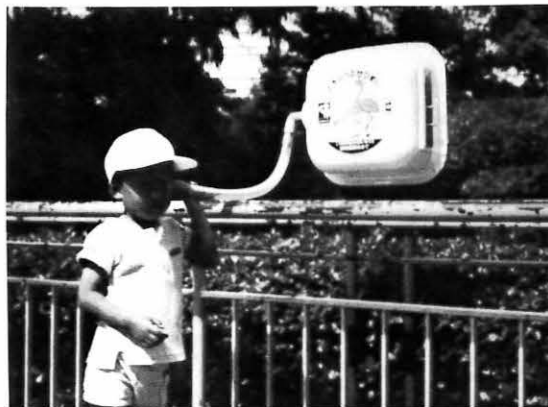


有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヶ所にあります

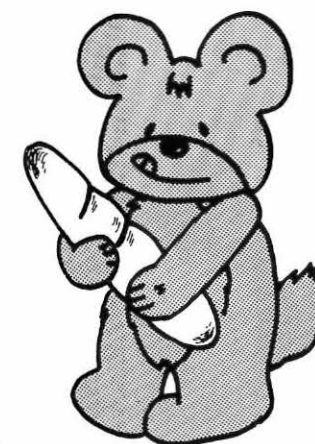
関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での お食事、ご休憩は

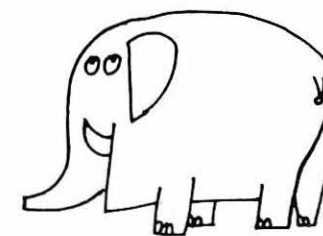
大阪市天王寺動物園内

中央売店

☎ (06) 771-0973



天王寺動物園内



南園売店

大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話 (06) 771-7110番

園内での写真は…
動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して
おりますのでご説明
に伺いました際は、
よろしくお願い致し
ます。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせて頂きます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社
TEL 06-856-7444

唯ちゃんも、
とってもゼリーも、
ますます成長しました。



浅香 唯

フルーゼリー
とってもゼリー



一日
愉快地
たのしめる!!



◎園内3ヶ所(南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下)に各種のりものがあります。

久竹娛樂株式会社
TEL(06)541-3938(代)

なきごえ 1991年8月10日発行(毎月10日発行)第27巻 第8号 (通巻312号)

編集/大阪市天王寺動物園事務所

発行人/大阪市天王寺動物園協会 主井良彦

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価150円(送料共) 1年継続(12部) 1,650円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 大阪 3-3 7823

編集委員 (中山良三郎/村上昭/中尾啓一/樽本勲/中川哲男/吉本昌俊/山根和弘/大谷直樹/宮下実/長瀬健二/神原安昭)
森本委利/竹田正人/永田健一/大野尊信/野口秀高/早川篤/赤松健/中垣圭史/大川光雄/土谷正道)